

《そう合問題3》

いろいろなしゅるいの文章問題をといてみよう。問題をとくときは、本文をよく読み、内ようをしつかり理かいることが大切です。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

雲は何でできているのでしょうか。雲を手にとってみたとか、上に乗ってみたいとか、思う人もいるでしょう。

しかし、雲は手に持つことも、上に乗ることもできません。実は、雲は、小さな水のつぶの集まりなのです。

ところで、水のつぶがうかんでいるというのは、少しふしぎな気がします。たとえば、小さな水の水つぶである雨は、いつも地面に落ちてきます。もし、雨が空から落ちずに、空中にうかんでいたら、おどろいてしまいます。手に持っているものは、手をはなせば地面に落ちていくものです。

雲をつくっている、小さな水の水つぶが落ちてこないのは、空気の動きとかん係があります。空気はいつでも動いています。雲がある場所では、空気は上向きに動いていて、その空気におし上げられるため、雲をつくっている小さな水の水つぶは、落ちてこないのです。

(1) 雲は、何が集まってできたのですか。本文中から七字でぬき出そう。

(2) (1) が落ちてこないのは、なぜですか。次のア〜ウからえらぼう。

- ア 雲がある場所の空気は、下向きに動いているから。
- イ 雲がある場所の空気は、上向きに動いているから。
- ウ 雲は、いつもその場所から動かないから。

【答え】

(1) 小さな水の水つぶ

(2) イ

【かいせつ】

(1) 本文に、「実は、雲は、小さな水の水つぶの集まりなのです。」とある。

(2) 本文に、「雲がある場所では、空気は上向きに動いていて、その空気におし上げられるため、雲をつくっている小さな水の水つぶは、落ちてこないのです。」とある。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

雲の中はどんな様子なのか、見てみたいと思いませんか。もちろん、そうすることはできませんが、同じような体けんをすることはできます。

きりの中に入ったことがあるという人は、雲の中の様子を知っていることと、ほぼ同じです。というのも、雲ときりは、どちらも小さな水のつぶの集まりで、空にあるものを雲、地上にあるものをきり、とよんでいるからです。

ところで、雲はどこから来て、どこへ行くのでしょうか。地球を回っているのでしょうか。

空を見ていると、雲がだんだんうすくなって消えていくのを見ることができます。もしかしたら、みなさんの中には、雲ができる様子を見たことがある人がいるかもしれません。そうです。雲は、生まれたり消えたりするのです。

また、雲は空にあって、雲のまわりには空気しかありません。ですから、雲は、空気から生まれるということが分かります。

(1) 雲ときりについて、次の二つの問いに答えなさい。

A どのようなことが同じですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

	どちらも	

いること。

できて

B どのようなことがちがいますか。()にあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

雲は(1)にあって、きりは(2)にあるということ。

②	①

(2) 雲について、本文の内ように合っているものを、次のア～エからえらぼう。

- ア 雲が消えることはないが、生まれることはある。
- イ 雲は消えたり生まれたりする。
- ウ 雲は消えることも生まれることもない。
- エ 雲が生まれることはないが、消えることはある。

(3) 雲は何から生まれると、筆者はのべていますか。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

【夏の暑い日、もくもくした雲が空にうかんでいるのを見たことがありますか。雲は、地面の温度であたためられた空気が、空に上っていつてつくられたものです。空気は、あたためられるとふくらんで軽くなります。そうすると、風船のように上っていきます。】

では、上っていった空気から、雲ができる仕組みを考えてみましょう。

あたためられてふくらみ、まわりより軽くなった空気が上っていくと、空気の温度は下がります。高く上るほど、空気の温度はだんだん下がるのです。

ここで、雨の日に、車のガラスがくもる様子を思い出してみましょう。これは、車内の空気があたたかいのにガラスがつめたいので、ガラスの近くの空気がひやされることで起こります。空気がひやされると、空気中の水じょう気とよばれるものから、水のつぶができます。この水の水つぶがガラスにつくことによつて、ガラスがくもるのです。

雲ができる仕組みは、これとにています。地面の温度であたためられた空気は、ふくらんで軽くなり、上っていきます。空の高い所では、空気の温度が下がるので、空気中の水じょう気から、水の水つぶができます。そして、この水の水つぶから、もくもくした雲がつけられるというわけです。

(1) 雲は、どのようにできますか。空らんにあてはまる言葉を、【】の中からぬき出そう。

地面の温度で		
軽くなり、空に	空気が、	

いき、雲ができる。

(2) 雨の日に、車のガラスがくもる様子を、次のようにまとめました。()にあてはまる言葉を、本文中から五字以内でぬき出そう。

車内のガラスの近くの空気が(①)と、空気中の(②)から(③)ができる。その(③)がガラスについて、ガラスがくもる。

③	②	①

(3) 雲ができる仕組みとにているものを、次のア～ウからえらぼう。

- ア 夏の暑い日。
- イ 雨の日の車内。
- ウ ふくらんだ風船。

(4) 雲ができる仕組みに、次のア～オをならべかえよう。

- ア 水がつぶができる。
- イ 空気があたためられる。
- ウ 空気の温度が下がる。
- エ 空気が軽くなって上っていく。
- オ 空気がふくらむ。

↓

↓

↓

↓



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

雲の中はどんな様子なのか、見てみたいと思いませんか。もちろん、そうすることはできませんが、同じような体けんをすることはできます。

きりの中に入ったことがあるという人は、雲の中の様子を知っていることと、ほぼ同じです。というのも、雲ときりは、どちらも小さな水のつぶの集まりで、空にあるものを雲、地上にあるものをきり、とよんでいるからです。

ところで、雲はどこから来て、どこへ行くのでしょうか。地球を回っているのでしょうか。

空を見ていると、雲がだんだんうすくなって消えていくのを見ることができます。もしかしたら、みなさんの中には、雲ができる様子を見たことがある人がいるかもしれません。そうです。雲は、生まれたり消えたりするのです。

また、雲は空にあって、雲のまわりには空気しかありません。ですから、雲は、空気から生まれるということが分かります。

(1) 雲の中の様子を見ることは、どのような体けんと同じですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中から四字でぬき出そう。

に入る体けん。

(2) A「雲」と、B「きり」を正しくせつ明したものを、次のア〜エから、それぞれえらぼう。

ア 小さな水のつぶの集まりでできていて、動いているもの。

イ 小さな水のつぶの集まりでできていて、地上にあるもの。

ウ 小さな水のつぶの集まりでできていて、止まっているもの。

エ 小さな水のつぶの集まりでできていて、空にあるもの。

A
B

(3) 雲は何から生まれると、筆者はのべていますか。次の()にあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

() (1) 雲の中の様子を見ることは、どのような体けんと同じですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中から四字でぬき出そう。

①
②

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

夏の暑い日、もくもくした雲が空にうかんでいるのを見たことがありますか。雲は、地面の温度であたためられた空気が、空に上っていつてつくられたものです。空気は、あたためられるとふくらんで軽くなります。そうすると、風船のように上っていきます。

では、上っていった空気から、雲ができる仕組みを考えてみましょう。

あたためられてふくらみ、まわりより軽くなった空気が上っていくと、空気の温度は下がります。高く上るほど、空気の温度はだんだん下がるのです。

ここで、雨の日に、車のガラスがくもる様子を思い出してみましょう。これは、車内の空気があたたかいのにガラスがつめたいので、ガラスの近くの空気がひやされることで起こります。空気がひやされると、空気中の水じょう気とよばれるものから、水のつぶができます。この水のつぶがガラスにつくことによつて、ガラスがくもるのです。

雲ができる仕組みは、これとにています。地面の温度であたためられた空気は、ふくらんで軽くなり、上っていきます。空の高い所では、空気の温度が下がるので、空気中の水じょう気から、水のつぶができます。そして、この水の水じょう気から、

した雲がつくられるというわけです。

(1) 空気があたためられてふくらむと、重さはどうなりますか。

(2) 空気は、(1)のようになった後、どのようになりますか。

() にあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

あたためられてふくらんだ空気は、風船のように

(1) () 上って、高く上るほど、空気の (2) () は下がる。

①	②

(3) 雨の日の車内の空気は、どのような様子ですか。次のア～エからえらぼう。

ア ガラスの近くの空気はつめたいが、車内の空気はあたたかい。

イ ガラスの近くの空気によって、車内の空気もあたためられる。

ウ 車内の空気によって、ガラスの近くの空気はあたためられる。

エ 車内の空気よりも、ガラスの近くの空気のほうがあたたかい。

(4)

に入る言葉を、次のア～ウからえらぼう。

ア ちくちく

イ もくもく

ウ ぱくぱく

(5) 雲ができるじゆんに、次のア～オをならべかえよう。

ア 空気が軽くなって上っていく。

イ 水のつぶができる。

ウ 空気がふくらむ。

エ 空気があたためられる。

オ 空気の温度が下がる。

↓ ↓ ↓ ↓



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

雲は、水のつぶの集まりからできています。そして、空にうかんでいる雲のまわりには、空気しかないのです。その水のつぶは、空気からできることが分かります。ということとは、空気中には水があることになりません。

しかし、その水は、みなさんが飲んだり、手をあらったりする水とはちがいます。みなさんがいつも見ている水は、えき体です。けれど、空気中にある水は、同じ水でも気体で、水じょう気とよばれています。

さて、えき体の水は、百度までねつすると気体になります。また、百度よりひくい温度でも、水の表面から、少しずつ気体になります。

【たとえば、せんとく物をほしておく、やがてかわきまです。これは、せんとく物の水分が、空気中に出ていくからです。

このように、えき体の水は気体になって、空気中に出ていきます。これを、水じょう気といい、この水じょう気から、雲ができるのです。】

(1) 雲は何からできていますか。本文中から八字でぬき出そう。

(2) 水について、次のようにまとめました。()にあてはまる言葉を、本文中から三字以内でぬき出そう。

ア
イ

わたしたちが、いつも飲んだり手をあらったりしている水は(ア)で、空気中にある水は(イ)である。

(3) ほしておいたせんとく物がかわくのは、なぜですか。()にあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

ア
イ

せんとく物の(ア)が、(イ)に出ていくから。

(4) 雲は何からできていますか。(1)を言いかえている言葉を、本文中の【 】の中から五字でぬき出そう。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

雲は、水のつぶの集まりからできています。そして、空にうかんでいる雲のまわりには、空気しかないのです。その水のつぶは、空気からできることが分かります。ということとは、空気中には水があることになりません。

しかし、その水は、みなさんが飲んだり、手をあらったりする水とはちがいます。みなさんがいつも見ている水は、えき体です。けれど、空気中にある水は、同じ水でも気体で、水じょう気とよばれています。

さて、えき体の水は、百度までねつすると気体になります。また、百度よりひくい温度でも、水の表面から、少しずつ気体になります。

【たとえば、せんとく物をほしておく、やがてかわきまです。これは、せんとく物の水分が、空気中に出ていくからです。

このように、えき体の水は気体になって、空気中に出ていきます。これを、水じょう気といい、この水じょう気から、雲ができるのです。】

(1) 雲は何からできていますか。本文中から八字でぬき出そう。

Blank box with horizontal dashed lines for writing.

(2) えき体の水をねつしたとき、気体になるのは何度ですか。漢数字で書こう。

Blank box with the character '度' (degrees) written inside.

(3) せんとく物がかわくのは、なぜですか。()にはあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

せんとく物の(ア)が、(イ)から。

Two vertical boxes for writing. The top of the left box is labeled with circled '1' and the top of the right box is labeled with circled 'ア'.



(4) 本文中の【 】の部分から、雲のでき方をまとめました。
() にはあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。
ただし、(ア) は二字で書こう。

えき体の水が(ア) になって、空気中に出ていく。

だから、空気中には(イ) がある。

(イ) から雲ができる。

